

安倍奥

白沢右俣

遊行日:10年3月27日

メンバー:三井(単独)

今年の沢の開幕戦。例年の如く安倍奥の沢から白沢右俣をP.U.

白沢は安倍川左岸の沢の中では黒沢と並んでオススメの沢とっていい。しかし、登られるのは専ら中俣で、左俣は100mを越える大滝があって遊行価値はある。しかし、右俣は滝の数も少なく、コレといった売りが無い、とのことで入渓者は見られない。

僕自身、右俣はかなり以前に中俣を遊行した折に下降した事があり、その時の記憶はまるでないのだが何も無い沢だった、という印象だけが刷り込まれていた。期待はし難いがまあ、沢に入れるだけでよしでしょうか。

白沢沿いの林道に入ると間もなくパイプで組まれた大きな堰堤があり車はそこまで。早速、入渓の支度をすも予想外に寒い、「承知のうえでは...、」と言われても寒いものは寒い。

防寒具代わりに雨具を着込んでスタート。右俣の出合いまでの様子は承知の事、河原状の沢をひたすら濡れないように、そのことに神経を集中させて遊行していく。しかし、濡れた岩に手をかけて登っているだけで手がかじかんでくる。

漸く右俣と中俣との二俣。右俣はモノラックのレールが沢を横切っている。右俣に入ると沢幅が狭まり直ぐ7mの滝と出会う。水流左から登れるかと足

をかけるといきなりズルッ。難しくはないが何かやな感じ。シーズンの初めは気持ちに馴染んでいないのか無闇に慎重になる。ロープをつけるべきか...。それも面倒だし...

結局、巻く事にして一旦、二俣まで戻り、モノラックのレールに沿って登ると簡単に巻ける。沢に戻るとナメ滝の連瀑となっていて漸く気分が上向く。が、それも束の間、再び巨岩の転石帯。我慢の遊行が続く。

水流から頭を出している石に飛んで渡渉しようとした時だ、その石がぐらついて流れに落ち、腰まで濡らす。(注意したって濡れる時は濡れる、ってか。)

日和見たい気持ちを押さえて先に進む。転石帯が少し開けてくると二俣となり、沢にはさまれたように小広いワサビ田があらわれる。

安倍奥の沢に入ると殆どの沢にワサビ田がある。何千個もの石を積み上げ、ひな壇のように石垣が組まれている様子は驚きの光景だ。ただ、上流部にあるワサビ田はその殆どが放置され荒れている。(ここもそうだ。)

右俣には10m位の滝がかかっているのだが直ぐ脇にワサビ田が広がっているのだからまるで気が乗らない。稜線まで残り三分の一くらいか、この先、何も無かった気がする。それは地図の等高線からも読み取れる。

濡れて寒さが身に染みる。何とか保っていた戦闘意欲が萎える。「戻るか...。」

寒さに震えながら足早に沢を下り、開幕戦を終える。